



今だって  
スマイル!

基本CG51枚



あれから10年... それぞれの道を歩きはじめた5人

それぞれの職場では執拗なセクハラが待っていた...!!

ハッピーな未来は待っているのか!?



正体はバレてるよ(笑)  
早くあの姿に  
なってくれないかな

ボクはずっと  
大きなお友達  
だったからね♡

いいね♡その方が  
犯りがいいがある

わたし星空みゆき  
現在は絵本作家を目指しつつ  
老人ホームなどの介護施設で  
働いています！

はい♡あ〜ん  
美味しいですか？

おじいちゃんこれ  
ただのおかゆ♡  
それから  
作ってくれているのは  
わたしも知らないの  
食堂のおばさん♡

うん、うん  
みゆきちゃんの作る  
ビーフストロガノフは  
いつ食べても最高じゃ



みゆきちやさん  
早くこっちにも  
頼むよ〜

もうお腹  
へ〜へ〜へ〜

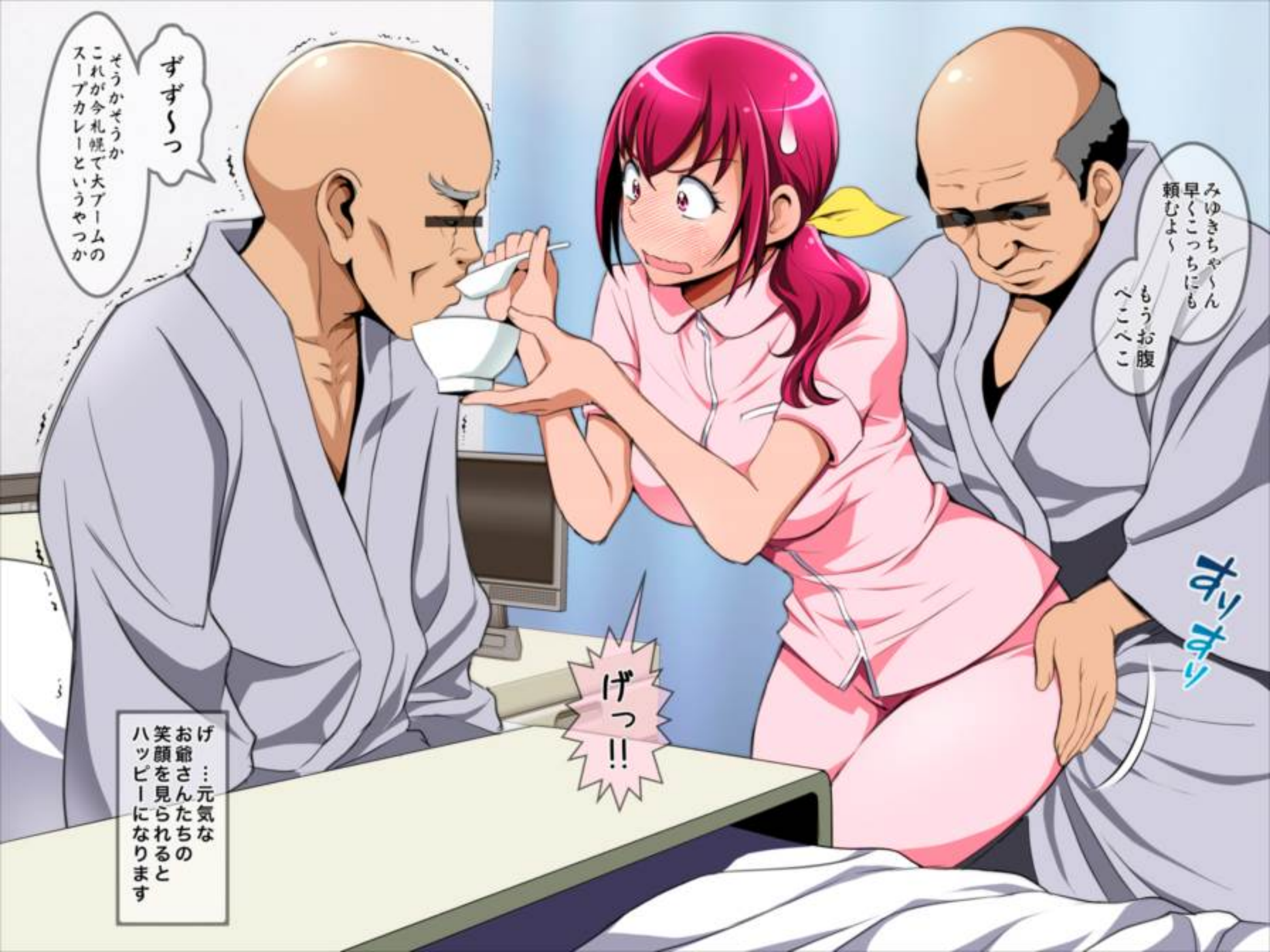
まりまり

げっ!!

ずず〜っ

そうかそうか  
これが今札幌で大ブームの  
スープカレーというやつか

げ  
お爺さんたちの  
笑顔を見られると  
ハッピーになります



や山田さんは自分で  
ご飯食べれるでしょ!!

それからお尻  
さわらないで  
ください!

ひゃん♡

みゆきちちゃん  
飯はまだかいの?!

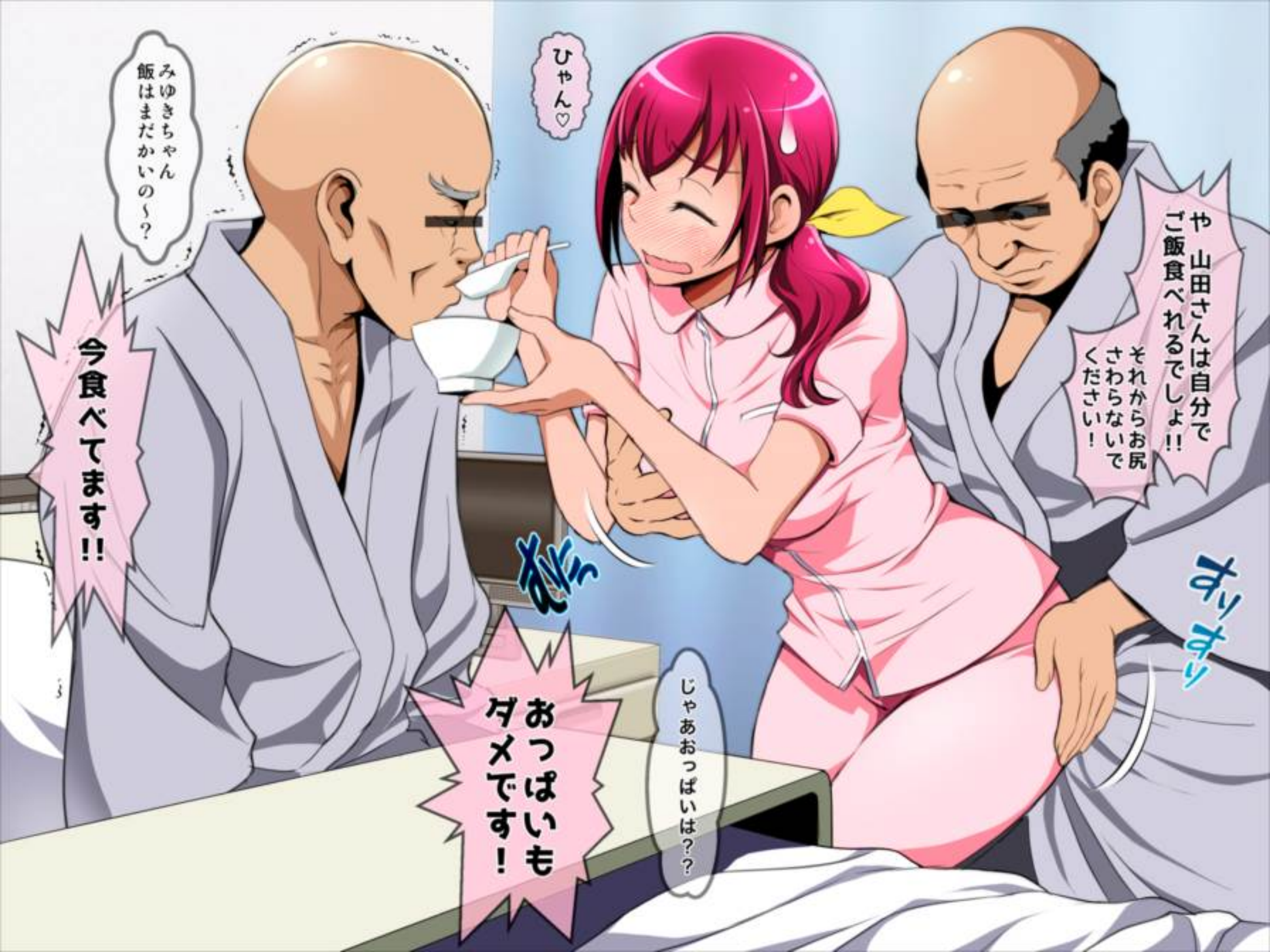
今食べてます!!

ズリズリ

ん

おっはいも  
ダメです!

じゃあおっはいは??



元気でやんちゃな  
お爺ちゃんたちを  
おとなしくさせるに

「いつものたむよお  
みゆきちやくん♡」

「元気ちようだいよおおおお」

実はちよつぱり  
苦労しています

「母乳は出てません!」

「うんうん、やっぱり  
牛乳は北海道が一番じゃっ」

たが

い

い

い

い

も、もう今日は  
ここまでです…

…だれかきちゃう

「みゆちゃん おっぱい  
一段と大きくなったのお〜」

「ワシらが毎日欠かさず  
こうして吸ったり揉んだり  
してやっとするからじゃろう」

「感謝してもらわんと♡」

「しません!」

「大地の恵みやあ  
感謝、感謝じゃあ」

たが

たが

たが

あつあつ  
ほろほろ

あつあつ

あつあつ

あつあつ

あつあつ  
あつあつ

あつあつ

あつあつ  
あつあつ



こうなると  
お爺ちゃんたちは  
止まりません…

…わたしの身体を  
触ったり舐めたり

…ん、ん

ちゅぽ  
ちゅぽ

ちゅぽ  
ちゅぽ

んぽう…っ!

「誰にも見られなくなかったら  
早く終わらせてよ」

「早く♡早く」

「んほおお  
みゆきちゃんのかちマンコ♡  
気持ちいいいいいい♡」



「こゝ…こゝんなにもド派手な猿股履きよつてからに…」

罰当たりな娘じゃ恥知らずな尻じゃ!

んぐら、んぐら、んぐ…ら

ちやば、ちやば、ちやば

ちやば、ちやば、ちやば

ちやば、ちやば、ちやば

「お源三シイちゃん覚醒してきたぞ(笑)」

源三のお爺さんは何故かわたしのピンクのはんつを見ると野獣に豹変します



「げしからん!!  
けしからん  
お尻じゃあ!」

「お尻」  
「お尻」

ズ  
ズ

ズ  
ズ

ズ  
ズ

んん!!

んん、

んぼろ、  
んぶろっ

野獣と化した  
源三お爺さんは

毎回わたしを  
後ろから強引に  
犯します



ガッ  
ガッ

「へっへっへっへっへっへ」

ゴ  
ゴ

「へっへっへ」

カ  
カ

カ  
カ

カ  
カ

カ  
カ

「生意気な尻じゃあ!!  
生意気な尻じゃあ!!」

んん…っ、

ほっっ

んんんんんんんっ!

源三お爺ちゃんは  
お年寄りとは思えない  
ダイナミックな下半身で  
わたしのお尻を  
突き上げてきます…!!

んほうっ

「らっ眺めだ、たまらんの〜♡」

「生意気な尻じゃあっっっ!!!」

「んー」

んんんっ!

源三お爺ちゃんに  
後ろから犯されている  
わたしを見ている  
山田さんのおちんちは

さらにどんどん  
大きく硬く  
なっついていきます…

「んんんっ!!!」



「ほれ、もっと舌をからませて激しくたのむよお♡」

「まだまだ  
じゃあ!!」

「…うんぬん」

んぶう…っ、  
んんん!

「んねで  
どぶじゃあっ!?!」

んんんんん  
んんんんん  
んんんんん

んんんんん  
んんんんん  
んんんんん  
んんんんん  
んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん

んんんんん



源三お爺さんは  
自分の介護ベツトに  
わたしを連れ込むと

さらに激しく  
後ろから犯してきます

「な…なんじゃ  
このおっぱいは!?!」

「んのおっ」

「んのおっ」

「生意気な!!」

「なんとという生意気な  
おっぱいなんじゃあ」



源三お爺ちゃんは  
わたしの胸を  
ちから一杯  
揉みしだきます

…おじいちゃん  
痛い…

「なんという  
ポリウムじゃー!」

「生意気じゃあ!!」

もつと…  
やさしく

「なんという  
柔らかさじゃっ!」

獣物と化したお爺ちゃんの力は  
お年寄りとは思えないほど力強く  
胸におじいちゃんの手の後が  
はつきりと残るほどです…

「こんな生意気なおっぱいは  
こうじゃああああああ!」





「このどピンクまみれの  
罰当たり小娘があああ  
あああああああ!!」

「ムンムンやるわらー!」

「り、りめえ…  
源三おじいちゃん  
りめえっ♡」

ふあ  
あ

源三お爺さんのハッスルは  
もう誰にも止めることは  
できません…



「ムンじゃあっっっっっっっっ」

「この桃色プリケツ娘があっっっっっっっ」

「ムンじゃっっっ」

「こんの生意気おっぱい娘があっっ!!」

「らめらめえ」

「ムンじゃ」

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

ムン

「これ以上血圧上がったら危険らよっ!! おじいひゃん!!」



「ほれ、  
いつものアレ  
やってくれ  
みゆきちゃん！」

「うう…  
冥土の土産にって  
言われちゃうと  
断れない…(泣)」

「もう！ 本当にこれで  
最後にしてくださいね！  
約束ですよ！！」



ズッ  
ズッ  
ズッ

「…フリキュア  
頼むから…!!」

「冥土の土産に  
どうかお願いじや」

そして最後は…

正直この歳で  
キュアハッピーは  
厳しいです…(泣)

「みんなをスマイルに  
してくれるみゆきちちゃん  
マジ天使♡」

「さあ、わしら  
大きなお友だちも  
スマイル手やージ  
させてもらうかの♡」

はー

はー

ええええ!?  
だめだめ

あれは絶対  
ダメえつ!!

あー

あー



カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

「キュアハッピーのケツまんこ気持ちいいっ♡」

「んお尻の穴をほじられた途端ものすごいおまんこの締めつけじゃあ!」

ひぎいっ!

あ...もうだめえっ  
これ以上はおしりの穴  
大きくなっちゃううっ

あー

あー

ふえええええ  
えええええん



らめえええっ！

「そんなに  
激しくしたら  
らめえっ！」

「こんなに可愛い菊の門  
ヒクヒクさせおって！  
けしからん!!」

「んげっやー！」

「んげっやー！」

「ハッピーのお尻  
壊れちゃううう」

「いいねえっ♡  
プリキュアまんこ  
温かくて気持ちいい♡」

Multiple instances of the sound effect 'んげっ' (n-gess) written in blue, scattered across the scene to represent the character's reactions.

お願いもう  
らめ…え

おちんちんを2本  
同時に入れたりしたら  
らめえええええつ!

「生意気なケツ穴  
しおって!!」

「ムジしてやるわー!」

ふああ

「なんとという  
強引な締まりじゃ  
許さん!」

「JEN!!」

「JEN!!」

SIDE  
GATE

SIDE  
GATE

「さすが  
フリキュアまんこ  
きゅんきゅん締まって  
もうイカされそうだ♡」

こんなお爺ちゃんたちですが  
きつと悪気はないのです…

「も もう我慢できんっっっ!!」

え? ええ?

ちよ、らめえっ!  
中に出しちゃらめえ  
えええええええ!!

年に数回しか  
会いに来てくれない家族…

その寂しさを紛らわすために  
こんなエッチなことを  
するのだと思うのです

「キュアまんこに中出し最高♡」





そんなお年寄りの  
孤独や寂しさを  
笑顔に変えるため  
これからもわたしは  
頑張ります！

ふあああああ  
あああああ

…す♡

下のお世話は（性的な意味で）  
お尻の穴がちよっぴり  
ヒリヒリしたりもして  
大変だけれど…

これもお仕事！  
スマイル♡スマイル

「んん…っ！」

お尻♡

お尻♡

「んおっ!!!」



わたし日野あかねは  
実家のお好み焼き屋を立て直すため  
兼ねてからスカウトのあった  
実業団バレーボールチームに  
決々入団したんや

「おい、日野！ 今日の試合の負け」

しかしここがイタイ破廉恥セクハラ  
バレーボールチームと知ったたら  
絶対に入団せえへんかったのに：！！

「：そんなん言われても  
うちはまだこのチームに入って  
たった二試合目で」

「キャプテンとしてお前は  
どう責任取るつもりだ!？」



「チームメンバーの名前すらろくに覚えてへんのに!」

「しかもいきなりキャプテンってムチャぶりにも程があるやろ!」

「高い契約金を払ってるんだ!! 言い訳するな!」

「オマエほどの実力があいなながら格下のチームに負けるとは」

なんでもいきなりお尻ワシ掴みやねん  
それ セクハラってヤツやろ

「随分と動きが固かったが…  
久々の試合でまだ身体がほぐれて  
ないんじゃないのか?」

「どくれ♡マッサージしてやるか」

ムチャ

ムチャ

コーチはチンパン  
監督はゴリラ：  
猿の惑星かここは？

ちよ、だからもう  
ケツはええねん

…最悪や

どうせなら  
背中とか肩  
揉んでや：

「目野はウチのチームにとって  
とっつても大切な選手だからな  
入念に揉みほぐしてやろう♡」

「どれどれ、オレにも  
マッサージさせしてくれ！」

んぎゃんぎゃん

んぎゃんぎゃん



「そもそも日野は大舞台に弱いのか？」

「試合になるととたんに動きが固くなる気がするぞ」

「そんなんないです！  
本番めっちゃ強いです!!」

なっ

「どうかな〜それではちよつと試してみるか？」

「やっ、ちよ？？？なんですっ!!？」



「本当に緊張しないならこんなことされたらいいでは  
ビクともしないはずだが？」

なにわけわからんこと  
言うてるんですか？

や!? ちよ…  
待ってや!?

「本当に本番に強いか試してみよう♡」

どんな理屈やねん!



「さあ、恥ずかしさを克服する特訓だ！」

「そやからウチは試合で緊張なんてしてへんって!!」

あぁ

かっ  
いっ

「最後まで付き合っ  
てやるからしっ  
っかり頑張れよ♡」



や…やめっ

おっぱい吸いながら  
なに偉そうなこと  
言うてんねん!!

「大舞台で最大限のパフォーマンスを発揮するには  
マンタルの強さが必要不可欠だ」

「こんなことでキヤーキヤー騒いでどうするー!」





「本番に強いかどうかは本番してみないとわからないとわからんな♡」

アカンアカン!!  
こんなんただの  
セクハラやろ!

アカンって!!

あははは♡

あはは♡

あはは♡

あはは♡

あはは♡

あはは♡

あはは♡

あはは♡

あはは♡

「うんうん、下半身もよくトレーニングしてらるようだな」  
「はいっもしっかり引き締まってるぞー!」

あはは♡



あーあーあーあーあ  
あーあーあーあーあ  
!!

それは  
アカンって!

「いいぞいいぞ! 大声出すほどよく締まる♡」



実家のお好み焼き屋を  
立て直すためや…

はあ…はあ、  
お願いやから…  
こ…これ以上は  
カンベンしてや

多少の苦痛は  
我慢せな

「まだまだ特訓は  
始まったばかりだぞ♡」

「こんなことくらいで  
根をあけてどうする(笑)」



「おっと上半身がガラ空きだったな  
バランスよく上下鍛えよう♡」

「じぶんっっ!!」

く…くるひい

「いいね♡ハート  
強くなりそう」

んほう…!?!



「まだ緊張や恥ずかしさがあるようだな！」

「もっと大きく股を開け!!」

も...アカンから

頭にくるのはこのゴリラ監督のちんぽがとにかくこっついうえに

激しいのなんのってなんども意識が飛びそうになることや...!

やさんな激しく突かれたら...アカンて♡

「いいぞ目野、ここもエロい汗びっしよりじゃないか」



「もっと激しくするぞ!!」

ふあふあ♡

いくいくもうアカン  
いくううううう!!

「まだまだ頑張れ!勝手にイクことは許さんぞ!!」



いくらなんでも  
こんなごっついちんぽで  
長時間犯され続けたら  
気が失ってしまうわ

…はあはあ、  
もうカンニンや

す 少し…  
休憩させてや

「ん どうした？  
タイムアウトか!？」

「いま使う？  
タイムアウト  
使っちゃうの？」



「どくれ♡タイムアウトだ」

んんっ!?

…んぐう

「しっかり水分補給しろよ〜!」

んぽっ

「いい尻だが、少し肉が付きすぎだな。今日からここもしっかり鍛えような!」





「どれ、さっそくそくその少ししたるんだ尻も鍛え直すか♡」

な…、  
なんやねん？

何する気なん???



「んはおくっ♡尻穴にちんぽネジ込まれたら  
マンコの締め付けキツくなつたぞ！」

「ああああ  
アカンて!!」

「そんなん  
絶対アカン！」

アカン

「んふう♡♡気持ちいい♡」



そしてほとんどの国民に  
正体のバレているウチは  
監督に『ポーンナス出すから  
アレやって』と

「サニーちゃんのアナル最高！」

しぶしぶ  
キュアサニーに…

ゆっくりやで  
ホンマゆっくり…

フリとちがうで！  
冗談やないって！！

「ニチアサですつと見てたよお〜♡  
大人のお友達でよかったあ〜♡♡」



アカン…て  
監督 コーチ  
激しすぎ…

「いい締めまりだ！ さすがキュア♡アナル」

ウチのおしり  
壊れてまう

…おまんこもや

「プリキュアまんこも  
キュンキュン♡♡♡」





こんな毎日やけど  
ウチはなんとか  
元気でやっとなるで

はあはあ、  
…ふあああ

んあああああああ

「明日から毎日特訓だ!! 一緒にがんばろうな♡」

「なんの練習やねん!」

「もうこんななんバレーボール関係ないやん!!」

しかしこれホンマ  
おしり大丈夫なんやるか…?  
トイレの時とか??

…誰にも相談できへん(泣)

あはは

あはは

わたし黄瀬やよいは『ミラクルピース』の連載終了後から長期のスランプに落ち入ってしまったお仕事の依頼がすっかりなくなってしまうのです。

「おい、グズグズしてないで早くスカートたくし上げるよ!!  
×切近いんだから!」

：でもわたし  
そそんなの  
聞いてません

編集さんの紹介で  
なんとかアシスタントの  
お仕事をいたただいたのですが…

「パンツ見せてるところデッサンとりたいんだよ!」

ど…どうか  
こんな恥ずかしいことは  
勘弁してください…まい

…それが その  
エッチな漫画のアシスタントだと  
知ったのは仕事場に呼び出されて  
からだだったので

ベタでもトーン貼りでも  
なんでもしますから…

しかもエッチなポーズを  
させられるモデルなんて  
なにも知らされてなかったのです

×切前でイラ立っているのか  
作家先生はものすごい剣幕で  
怒鳴り散らします(泣)

「うるせえなっ！ もっと腰を前に突き出せよ！」





大声で怒鳴る作家さんの  
迫力押されてついつい  
されるがままのわたしでした

「今度はこっちに  
ケツむけろ！」

こ…こうですか？

小心者のわたしは  
怒られると恐怖心から  
言う通りにしてしまふのです

「もっとよく見えるように!!」

「ケツを高く上げる!」



「パンツの中はどうなってんだ!？」

「よくわかんねえから  
そのままパンツ脱げ!」

ふえええええ

ぐすん...

お願い...もう  
許してください

OK

「ケツの穴の奥のまで  
しっかり描いてやるから  
自分で広げる(笑)」



作家先生の要求が  
どんどんエスカレート  
してきた時点で  
なにか悪い予感  
はしていたのですが…

「両手を頭の上にあげて大きく足を広げる！」



「おいしいアシストの米俵クン後ろから即ちんこ挿入して」  
「はい、喜んで♡」

「おう、その表情いいね♡ そのまま大ゴマに使えるわ」

いやああああああああ  
ああああああああ!!

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ヒクッ

ハズレ

ハズレ

ヒクッ

「米俵クンそのまま」の字書くようにゆっくり腰動かして」

「はい、喜んで♡」

♡

!!?

んぶううっ

んぼう!!

「面倒くせえけど、俺がやるか…」

「よし、ここからは固定で動画で撮っとくからとりあえず俺のちんこしやぶれ！」

「そこでちんこ啜えてくれると  
大ゴマのカットに  
そのまま使えんだけどな…」

お尻

お尻  
お尻

お尻  
お尻

お尻

お尻



ぼうー！  
…んぶう、

…んぶ、

「らーいねえ〜！ イメージ通り」

「はい、喜んで♡」

「米俵クン、少し強めに突らで  
おっぱいは揺れる程度でらーいから」

ハハハ

ハハハ  
ハハハ  
ハハハ  
ハハハ

「…うくん表情イマイチだな  
米俵くんおっぱいいいじくり回して」

「はい、喜んで♡」

ふああ♡

あうっん♡

「…そのちよっぴりだけおっぱい…感じてしまい声が出てしまいました」

「うかつにもちよっぴら…」

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル

ズル



「あれ？この娘おっぱい感じてるみたいだな？」

「米俵くんもつと激しくおっぱいイジリたおして！」

「はい、喜んで♡」

んぶうっ

んんんんんんんんんん♡

「やっぱりおっぱい気持ちいいんだな、ちんこ激しく吸いはじめたぞ(笑)」

おっぱいは...おっぱいは  
りめえつつつつつつつつ！！

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡





身体の小さいわたしは  
下半身を担ぎ上げられ  
とんでもない姿で  
前から後ろから犯されました

「お この体位エロくていいね！  
こんな難しい角度描けないけど  
気持ちよさそうだからいいか(笑)」

「はい、喜んで♡」

「米俵クンはまだ射精しないでね  
この後いい絵を撮りたいから！」

ぽん

ぽん

ぽん  
ぽん  
ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ガタガタ

ガタ

シメシメ

シメシメ

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん







「ピースちゃんの  
小ちやくて可愛い尻に  
このパットエンドペニス  
入るかなあ〜♡」

んきこー

…はう

だめええっ、やっぱり  
こんなのいやあああ  
ああああああ!!

「もう大人でしよう  
しっかり  
お仕事 お仕事！」

「これがあのピースちゃんの  
お尻の中かあ♡  
温かくて気持ちいい♡♡♡」

締めすぎで  
入れただけで  
もうイキそう

ひきっ！

あ らめ…っ  
そんなに動いたら  
らめえええっ

…わたし変態さんの  
仲間入りです♡

お尻の穴に  
こんな酷いこと  
されちゃったら  
もう



ズズ  
ググ

「はい、そのまま  
こっち向いて！」

「いいねえ〜♡  
そんな悲しい顔しないで  
もっとアヘツてよ」



ふたりのおちんちんが  
お腹の中でゴリゴリ当たって  
おかしくなりそうなのです

ももももももも  
もう無理です

「米俵クン、アシスト料アップするから  
下からキュアマッコ壊れるくらい  
突き上げて！」

「はい、喜んで♡」

ズズ  
ググ

ズズ  
ググ

ズズズ  
グググ

いいぞ！いいぞ！！  
そのトロ顔♡最高！

あん♡

アウ

ふああああ♡

おお願いしましゅう  
もう許ひてえええっ

頭が真っ白になるほど  
：上からも下からも  
恥ずかしい穴を：  
壊れるほど何度も何度も  
犯され続けました

ズズズ

ズズズ  
グググ



「んお♡ もうイキそうだ!! プリキュアケツまんこ気持ちよすぎ!」

「米俵クンもう射精していいよ!」  
目一杯出してね!!」

らめらめ♡♡♡  
らめらめえ♡

中には出しちゃ  
らめええっ!!

「よ、喜んで!!」

おはははは



「おいおいアレ忘れてんだろ、射精に合わせてアレやれ！  
最後までしっかり仕事しろよ!!」

「ふえ?」

「ピースだよ!! ピースっ!」

ピカピカぴかりん  
じゃんけんポン♡  
キュアピースう…

「…」めんなひゃい  
いまやりまひゅ…

「今回は商業やめて薄い本出そうか? 米俵クン」

「はい、喜んで♡」

ア  
ア

ア  
ア

サッカーで高校・大学と大活躍させてもらったわたしでしたが…

右足に後遺症が残るほどの大怪我を負ってしまい、現在は大企業の社長クラスの個人フィットネス指導員をしています…

下呂川さん、もう少し背筋を伸ばしたほうが浮きやすくなりますよ！

息継ぎも回数を減らせるよう頑張りましょう



正直この仕事は好きではありません。  
でも、一緒に事故にあった妹の治療費のため  
仕方なく引き受けたのです…

この仕事が好きになれない理由は  
このおじさんです

ひん

ねえねえなおちゃん、  
エクササイズは  
もういいから  
ひと休みしようよ♡

は

は

はあ♡

し…しかしまだ  
十分も泳いで  
いませんか???

この下呂川物産の社長という男：なにかにつけてはすぐに身体を触ってくるのにはウンザリしています！

「さすがサッカー全国大会で活躍しただけのことはあるねえ」  
「うっとりするほど素晴らしいプロポーションだ♡」



あ…ありがとう  
ごまいます

しかももっと  
ウンザリするのは  
このいやらしい社長  
なんと双子なのです!!

「トレーニングが終わりのようにしたらわたしはここで…」



「なおちやくん♡ まだ帰らないでよおく  
弟のエクササイズが終わってないよおく」

おち

水

水

水

キヤアアアアアアア  
アアアアアアアアツ!!



「なおちやくん♡まだボクの方のトレーニングが終わってないよお」

「おいおい、弟のクセに兄ちゃんよりも先に楽しむつもりかあ？」

「大丈夫だよ、お兄ちゃん  
兄弟仲良く一緒に楽しもうよ  
ボクたち双子だらう〜」

は…っ!?

お兄ちゃん

お兄ちゃん

モギヤ



「もちろんココは兄さんが先だよ！」

「お先にどうぞ♡」

「うん、うん  
さすが兄思いの  
やさしい弟だ」

ガッ

ちよ!?

兄弟仲が良いのは  
とてもいいことだと  
思います

わたしはここで帰りますので  
この手を離してください!!!





「じゅる♡ じゅるるるるるるるるるるっ！」

「れるれる♡」

「ずじゅるっ」

本気で暴れればも  
逃げるのはとても  
簡単なのですが

きゃっ！

妹の治療費のことを考えると  
これ以上は抵抗はできません…

や やめ…っ やあ  
本当に帰りますからあつ

「ボクたち二人だけじゃ  
寂しいよおゝ  
一緒に楽しもうよおゝ」



やめ…て

グレィッ

「さあさあ、お兄ちゃんお先にどうぞ〜♡」

グレィッ

お願いします…っ！  
ほ 他のごとなら  
何でもしますから！！

「他のこと????  
これしかないだろう  
今のおおちゃんが  
ポクたちに  
できることなんて」



「かわいい弟妹のためにサツサと終わらせて早く帰らないとね」

「お兄ちゃん思いやりありすぎ♡優しすぎ♡」

や やめて！  
お願い…っ！！

イヤアアアアアア  
アアアアアアツ！！

「うんうん、それじゃあ  
先にいただくかな  
大人プリキュアまんこ」

ずぼん

ずぼん

わたしの正体は大抵の  
大きなお友達にはすでに  
バレているようです

この双子のおちんちんの  
大きさ長さといったら  
体格に比例して規格外の  
ビックサイズなのです

ひひっ  
ひひっ

「なおちゃんて仕事以外でも  
兄妹の世話とか家事に  
追われて全然遊んでないんでしょ？」

一人でも  
下半身が痺れて  
感覚がなくなる  
ほどののに…

く 苦しい…!!

この巨大なおちんちんが  
二人分：倍の一本で  
わたしを責め立てて  
くるのです

すっ  
すっ  
すっ

「おまんこ全然使ってないもんね  
つるつるのピカピカ♡」

すっ  
すっ

すっ  
すっ  
すっ

すっ  
すっ

すっ  
すっ



ひきこりー

ももう少し  
ゆっくり…!!

羨

「やったあ♡ボクのジユニアが  
なおちちゃん子宮に  
チュウチュウしてる!」

…あうん

んあああああ

ヒッパ

ヒッパ

ヒッパ

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

「ふうふうううううなおちやんのおまんこは  
いつお邪魔しても最高の居心地だね♡」

「どうだい？いつその事ボクの  
「ラマン」にならないかい？」

ぬき

ぬき

ぬき

そ そんなこと...  
できません

ピン

ピン

ぬき

ぬき

ぬき

ピン

ピン

ぬき

ピン

わたしのようない  
運動パカには  
とても務まらない  
です

愛人...というよりは  
ただの双子の使い捨て  
オナホにされそうなので  
丁重にお断りしました



「おっと、これではかわいい弟が生殺しになってしまおう  
弟のジュニアも面倒見てくれないかな」

ぬき

ぬき

ぬき

ぐぶっ  
ぐぶっ!!

んぶううっ〜!

「お兄ちゃん優しすぎ♡」

「それじゃあお口おマンコお邪魔するよ  
なおちゃんごめん、窒息しないでね♡」

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

ぬき

「あく気持ちいい♡セックスは何カロリー消費するのかな？」

「このエクササイズならボクでも毎日続きそう」

「なおちちゃん毎日、いや毎晩来てくれないかなあ??」

無理です  
ムリです!!

はあ、はあ  
：はああ

わたしの身体  
壊れちゃいますう!

正確には  
おまんこが  
：です





「なおちゃんには週2回から  
毎日来てもらえるように  
契約変更してもらおう」

「さすがお兄ちゃんそれは名案だよ！」

んぼろっ

ゆるゆるひて  
くら…はい

んぼろっそれはムリ  
ですらうらうらうらうらっ

んぼろっ

「ありがとう♡なおちゃん  
ボクたちこれでガリガリだね」



「なおちゃんアレお願いしてもいいかな？」

「は…はい」

そしてわたしは  
キュアマーチに  
なります：

プリキュアにならないと  
この双子はいつまでも  
果ててくれないのです

「やった〜♡キュアおまんこ最高♡♡♡♡♡」

さらに変身すると翌日  
会社ではなく  
直接わたしの口座に  
数百万ペリカの大金が  
振り込まれます：

正直助かっているのも事実です



「そんな可愛いキュアアナルひくひくさせてるの  
 見せつけられたらボクもう我慢でないよ♡」

は!?! それはダメ!  
 だめですっつっ!!

お尻は勘弁  
 してください!!

いひぎいひぎいひぎいひぎいひぎいひぎい

これをされると  
 腰に力が入らなくなり  
 数日は普通に歩けな  
 かってしまうのです...



「ブリキユアのこんな恥ずかしい姿  
こんな近くで見られるなんて  
ボクたち兄妹は幸せ者だなあ」

「はっはっは！  
というかボクたちが  
させてるんだけれどね♡」

いやあああああ  
あああああ  
あつ!!

やめさせてええええ!!

もう無理ですうっつ  
このお仕事辞めます



「やっとな根元まで  
ズツホリ入るようにな  
ったね♡」

「うんうん♡なおちゃんは  
頑張り屋さんだからねえ♡」

ひひぐう  
はあっ  
はあ  
んあ  
っあ

誰か たす…けて



「はあああああ〜っやっぱりフリキュアになったなおちやんが一番可愛い♡」

「もういらよね♡ 中に出すね♡ しょうがないよね♡」

中に出すのだけは  
やめてええええええ  
ええええええっ!!

「お兄ちゃんズルいよ！ ボクも中に出したい!!」



「はっはっは 当然だろう！ ポクたちは双子だ!!」

「一緒に射精しようじゃないか♡ 盛大に(笑)」

ふあああああああああ  
お願い助けてえええええっ

「さすがお兄ちゃん♡ それじゃあお言葉に甘えて……!」

なんだかんだと  
大人の事情により  
この生活からなかなか  
抜けられない私です…

玉袋君、青筋君  
授業は始まっていますよ

先生と一緒に  
謝ってあげますから  
教室に戻りましょう

私は現在教職に就いています  
担当は国語や古典などを教えています  
放課後は剣道部と書道部の顧問も兼ね

多忙な毎日ですが  
とても充実しています



「えくやだよ」

「オレはれいか先生のぱんつ見せてくれたら考えてもいいよ(笑)」

ア?

わ…わかりました

…これでいいですか？  
さあ、教室に戻りましょう

大人でもない子供でもない  
年頃の子を相手にするのは  
大変ですが、とても  
やり甲斐があります

この子達が反抗するのは  
きつと愛情に飢えている  
だけなのです

そんなことは  
ありません…

「先生ずりいつ！玉袋の言うことばっか聞らてよ！！」

「じゃあれいか先生のおっぱい見せてよ！」

「へ…!!?!」

「れいか先生は生徒みて態度を変えるんのかよ!?!」

「そんなことありません!! みんな同じです！」

ど  
れ  
ど  
う  
で  
す  
か  
?  
こ  
れ  
で  
い  
い  
で  
す  
か

しっかりとした愛情を  
与え続けられれば、どんな子供にも  
きつと伝わるはずなのです！

あ  
ふあ

んん…ん

「れいか先生大好き♡」

「先生のおっぱい大きくて真っ白で柔らかくてマジ天使♡」

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡

おっぱい♡



!!

きゃ...!?

もくもく♡

もく♡

もくもく♡

もく♡

いやっほう♡れいか先生の  
おっぱいだああああ♡♡



ふぁだめっ!  
吸ったりしては  
いけま...せん

...見るだけ  
触るだけに  
してください...

もくっ♡

「ムリ無理! れいか先生の  
おっぱい目の前です  
それはムリ!!!」

© 2005 GUST

「すりい 先生!!  
それじゃあオレは  
ちんぽ吸ってよ!」

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

ちんぽ

「これで最後に  
してくださいね、  
授業が終わって  
しましますから…」

れいか先生の  
くちびる  
柔らかく♡



「いいからいいから、先生はオレのちんぽに集中して！」

ふあ…ちよ  
いけません！

ひちや  
ひちや

うんぬん

「先生はお尻もしまつてて  
キレイだよねえっつ  
剣道とかやってるからっ！」

んぐう！

ちんぽ

うんぬん

お尻がスースーすると思ったら  
いつの間にか下着を脱がされてました…

生徒たちを信頼しすぎたのか  
ちよっぴり隙だったと思います



「先生、オレももう我慢できないのでちんぽ入れま〜す!」

え? ええ!!  
いけません!

ふああ ああん♡

そそ それはダメです!!  
それは愛し合った男女が結婚したのち…







「こんなのはあ、はあっ いけま…せん」

「ああん ああん」

「れいか先生の おマンコの中 温かくて気持ちいい♡」

「大丈夫、先生！ オレたちみんな れいか先生のこと大好きで 本気で結婚したいと思っているから」

「そんなプロポーズ するいです…！」

愛の告白に 全く慣れていない私は 年甲斐もなくドキドキ してしまいました

「あーん」

「あーん」

「あーん」

「あーん」

「あーん」



や...やめなさい!!  
こんな恥ずかしい姿  
させないでえっ!!

屋上の青空の下  
こんなはしたない姿を  
させられている事態に

何故か少し興奮している  
自分自身に気付きました...

「だって大好きな  
れいか先生のおマンコに  
オレのちんぽが  
出たり入ったりしてるトコ  
よく見たいんだもん(笑)」

「そんな卑猥なこと  
昼間から大きな声で  
言っではいけません!!」

カキカキカキカキ  
カキカキカキカキ  
カキカキカキカキ  
カキカキカキカキ  
カキカキカキカキ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

カキカキ

「これ終わったらすく教室戻って勉強するから！」

本当ですね、本当に  
教室に戻って  
勉強してくれると  
約束してくれますね

「このまま中出しさせてくれたら  
猛勉強して先生と同じ国立大学だって  
合格しちゃいますっつっつっつ!!」  
「今は偏差値2だけど」

愛情を持って接すれば  
気持ちはず伝わります  
私は生徒達を信じます!

え？ 本当ですか？  
本当に勉強してくれるの？  
先生とっても嬉しいわ♡

「だからいいか先生結婚して！  
そしてオレの子供十人産んで♡」

「お 大人を  
からかうものでは  
ありません！」

「先生照れてるカワイイ♡♡」

「するする！  
勉強くらい  
するする！！」

男性経験の少ない私は  
「結婚してほしい」や  
「子供を産んでほしい」の  
言葉にいちいち反応して  
しまいます…♡



あふあ…あ  
はあ、はあん

そ そんなに  
激しくしないで  
声…出ちゃうから

「無理だよおろ!!  
照れてるれいか先生  
カワイすぎなんだもん」

あうん



「なにになに？ 真面目に勉強したら  
青木先生と毎日SEXできるの??？」

ひやくふあくれすよ  
(約束ですよ)

おふあつたりふんな  
ひよーひつにもろるんれふよ  
(終わったりみんな教室に  
戻るんですよ)

「れいか先生卒業したらマジ結婚して♡」

いつの間にか  
他にも屋上にたむろしていたらしい  
他の男子生徒も集まってきました

愛情は無限に与え続けるものでは  
人数など問題ではありません！

いんま

「れいか先生と毎日中出しSEXやり放題なの？」

「するする勉強くらいらくくらでもするわ〜」

んぼうっ  
んぼうっ!

ふ…っん

「うおやべっ  
っ…もう出るー!」

すげっ!?!  
一滴も残さず全部飲んでくれてる  
れいか先生エロ優しい」

愛おしい生徒の精液です  
一滴もこぼすわけには  
いきません!

しかも彼らこんな私で  
勃起・射精してくれたのです

んんんんんん  
んんんんんん

私の気持ち伝わったらしく  
彼らは次々に私の中に射精すると  
「本気で勉強するから結婚して  
くださいね!」と  
足早に教室へ戻っていきました

「れいか先生、  
オレ本気で勉強するから  
結婚してください!」

はあ、はあ、はあ  
…ふああ あっ

しかし彼らの若さに任せ  
少し乱暴な性行為に…  
私の腰は抜けてしまいそうです

五人以上に射精されてから先は  
もう立っていられない程に  
足はガクガクと震えていました

も…もう少し  
ゆっくりしましょう  
落ち着いて…  
優しくね

激しく





彼らは後に死に物狂いで勉強し、後には次々と名門大学へ入学していきました

「だからお願いです、卒業したらすぐに結婚してください！」

「先生！俺は年内に絶対学年トップになります!!」

中には政治家になったり一流企業に入社したり起業して億万長者になった生徒もいます

困ったことにその全ての生徒から求婚されています

気持ち嬉しいけど先生は一人しかいないの

みんな全員とは結婚できないの！



：私の正体は  
ほとんどの生徒に  
知られています：

「先生、オレこれから毎日遅刻しないでちゃんと登校するから」

「無免許バイク運転もやめてヤバいドラックも全部捨てて  
もうこの学校へのテロ行為も二度としません…！」

「だから先生…アレお願いします」

わかりました!!  
プリキュアに  
なりますから!  
みんないい子に  
するんですよ!!  
約束ですよっ

「すげえっ♡れいか先生の  
キュアビューティー美しすぎ!!」



「キヤッツ?」

「なになに?  
どうするの??」

ま

だダメよ  
そんなの  
ダメダメ!!

やんっ

「お願い♡お尻の穴に  
ちんぽ入ってる時の  
青木先生の顔見せて♡」

ふあああああああ  
ああああああつ!!

ず  
ぽ  
ぽ

ま

ま

ま

「…青木れいか先生  
全てが美しすぎ♡♡♡  
お尻も♡お尻の穴も♡」

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま

ま



「こゝんなの先生だけにしておげね、お尻：壊れちゃうから」

「れいか先生おマンコ  
さらにキュってしまって  
気持ちいい♡」

「だって…その  
お尻に何か入ってきたら  
カンドしまいます  
言わせないで…」

「早く卒業して  
先生と付き合いてえっ!!  
しいては結婚して  
子供二十人欲しいっ」

この生徒達のおかげで  
数年後この学校の偏差値は  
全校10以内にはいる程に  
なるのです

県下でも有数の  
名門進学校に  
急成長します…



「先生、俺 明日から、いや今日から 猛勉強するから 中に出させてください!!」

「…わ わかりました♡」

今日は安全日なので  
中に出してください…!

熱…♡

「勉強するのはとても良いことですが  
私にためては無くどうか自分のため  
にして下さい…!」

「ヤダヤダ!! 先生のため以外に  
なんてできないよ!  
勉強大嫌いだもん」

「玉袋君のばか…でもちよっと先生嬉しいですよ♡」



こ こんなのにも  
み みんなの熱い想いが  
溢れ出てる…♡



愛する生徒一人一人の  
熱い想いが私の身体に  
溢れるほどに注がれて  
いきます

ふあああああんっ♡

身中♡

身中♡

身中♡

身中♡

「れいか先生ありがとう！  
俺、絶対立派になつて  
先生迎えにくるから!!」

「それまで結婚しちやダメだよ！」

「それはだめです！」

「あーっ♡♡♡」

ぐんぐん...

愛♡

愛♡

「あーっ♡♡♡」

「あーっ♡♡♡」

「あーっ♡♡♡」

「あーっ♡♡♡」

「...え？ どうして!?  
先生もしかして彼氏とかいるの?」

「いませんよ」

「じゃあどうして...」

ありがとうみんな  
その気持ちだけで  
先生...とっても嬉しいわ

だってその頃  
私はきつと  
:おばさん  
なってるもの

本当は勉強なんて出来なくてもいいんです  
たとえ勉強なんて出来なくともハッピーなお友達を、仲間を先生は知っています！

でもね、みんなはまだ学生なの  
お勉強がお仕事なのです  
だからもう少しの間だけ  
先生と一頑張りしましょうね

先生はいつでも見守っていますよ  
今もこれからも…♡

